

第2章

全体構想

1. 将来都市像
2. まちづくりの基本目標
3. 将来都市構造



第2章 全体構想

1 将来都市像

第3次安中市総合計画や市民の皆さんの声（市民意向調査・意見交換会等）、これまでの都市の成り立ちとこれからの都市の変化などを踏まえ、まちづくりの将来像を以下のように定めます。

つなぎ 紡ぐ 人とまち
魅力あふれる自然と 歴史重ねるまち あんなか

人と人がつながる。人とまちがつながる。そして地域と地域がつながり、10年、20年先も住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

また、コンパクト・プラス・ネットワークや持続可能なまちづくりの実現を目指し、新たなまちの拠点整備やそれらをつなぐ西毛広域幹線道路等のネットワークの整備を進めます。そして、今ある魅力的な自然・歴史景観、文化財などを後世に継承するとともに、新たな歴史を紡いで新しいあんなかをつくっていくために、この将来都市像を掲げます。

つなぎ 紡ぐ 人とまち

「つなぎ」は、人と人の関係性を強くし、地域コミュニティの活性化を図ることで、人のあたたかさを大切にしたいまちを目指すという意味が込められています。

また、西毛広域幹線道路や新駅設置の検討、デマンド交通の普及などにより、新しい交通体系を構築し、地域間や周辺自治体をつなぎ、誰もが心地よく生活できるまちの実現も目指します。

「紡ぐ」は、古くから栄えた養蚕・生糸の文化や歴史もイメージするとともに、私たちの手で新しい歴史を紡いでいくという意味が込められています。

このように、「ひと」と「まち」を、「つなぎ」「紡ぐ」ことで10年、20年先も住み続けたいと思えるまちづくりをしていきます。

魅力あふれる自然

本市には妙義山・崇台山などの山々や碓氷湖・妙義湖などの湖をはじめ、多くの魅力あふれる自然があります。それらの自然の保全を図るとともに、河川などの身近な自然を活用しながら、住環境と調和した快適な暮らしの創出を目指します。

- ・ 妙義山や崇台山などの山
- ・ 碓氷湖や妙義湖などの湖
- ・ 碓氷川や九十九川などの河川
- ・ 麻芋の滝、仙ヶ滝
- ・ 碓氷峠
- ・ 秋間梅林



碓氷湖



碓氷川



仙ヶ滝

歴史重ねるまち

本市には碓氷峠の鉄道遺産群やアプトの道など、多くの歴史・文化があります。それらの歴史的・文化的資源を保全し後世に継承するとともに、それらの魅力を活かした観光まちづくりを推進することで、にぎわいのあるまちの創出を目指します。

- ・ 碓氷峠の鉄道遺産群、アプトの道、中山道四宿、松井田城址などの歴史的資源
- ・ 板倉勝明、湯浅治郎、新島襄、柏木義円などの本市にゆかりのある偉人
- ・ 安政遠足などの昔から続く行事やイベント



鉄道遺産群



アプトの道



松井田城址



2 まちづくりの基本目標

将来都市像である「つなぎ 紡ぐ 人とまち 魅力あふれる自然と 歴史重ねるまち あんなか」を実現するために、より具体的な5つの基本目標を定めます。

魅力を高め 多様な人が活動し いきいきと交流するまち

西毛広域幹線道路等の整備や国道18号の機能強化、JR信越本線への新駅設置の検討、安中市役所庁舎の建替え、工業団地の新設や増設、公有地の利活用などの都市基盤の整備にあわせて、商業・業務機能の拡充を図り新しい魅力の創出を図ります。また、道の駅の新設や磯部駅周辺の活性化など、市が有する観光資源を活用し、魅力を磨くことで、市民や従業者、観光客など多様な人でにぎわうまちを目指します。

多様な移動手段が確保され 誰もが心地よく生活できるまち

電車、バス、タクシーなどの公共交通が有機的に結ばれ、学生や子育て世代、高齢者など、みんなが自分にあった交通手段を選択することができ、誰もが日常生活を便利で心地よく生活できるまちを目指します。

未来を拓く ^{ひら}より暮らしやすく新しいまち

AIやIoTの活用による自動運転技術や効率的なデマンド型配車システムをはじめとする先端技術を積極的に活用することで、交通問題や人手不足などの社会的課題に取り組むとともに、生活面でも新しい技術を活用することで、より暮らしやすく新しいまちを目指します。

誰もが安全で安心し 心豊かに暮らし続けられるまち

防災機能の整備をはじめとしたまちの強靱化を図ることで、激甚化・頻発化する自然災害から市民を守り、安全な生活を保障するとともに、温室効果ガス排出量実質ゼロへの取組やSDGsの取組などにより、将来にわたり暮らし続けることができるまちを目指します。

歴史・文化を継承し 自然とともに生きるまち

先人たちが築いてきた歴史・文化と、広大で豊かな自然環境や生態系を守るだけでなく、活用することで市の魅力を磨き、後世に継承することを目指します。

3 将来都市構造

将来都市像やまちづくりの基本目標の実現に向けた都市の骨格を示します。

3-1 土地利用の構成

土地利用の特性に応じた「市街地エリア」、「田園・集落エリア」、「山林自然環境エリア」の3つのエリアを示します。

【市街地エリア】

- ✓ 国道18号、JR信越本線などの東西方向の広域交通に沿った既存市街地とその縁辺部や、整備が進められている西毛広域幹線道路の沿道一部を、基盤整備を効果的に進める「市街地エリア」とします。
- ✓ 「市街地エリア」では、安中東地域、安中西地域、松井田地域、それぞれ3つの“まちのまとまり”ごとに、コンパクトな市街地の形成を図ります。

【田園・集落エリア】

- ✓ 市街地エリアと山林自然環境エリアの間に広がる河川沿いの農地、里山とそれに介在する集落地の区域を「田園・集落エリア」とします。
- ✓ 自然環境・農業生産環境との調和を図りつつ、集落地の生活環境の改善整備を進め、地域コミュニティの活力の維持増進を図ります。

【山林自然環境エリア】

- ✓ 市域西部の自然公園地域、森林地域を「山林自然環境エリア」とします。
- ✓ 自然公園法、森林法に基づく自然環境の保全と、広域観光交流や環境学習の場としての活用を図ります。
- ✓ 農地・山林とそれに介在する集落地については、周辺の山林自然環境との調和を図りつつ、生活道路の整備などによる生活環境の改善と、山林・農地の管理・活用による荒廃の防止を進め、コミュニティの活力の維持増進を図ります。



3-2 都市の拠点とゾーンの構成

市民生活の中心となる都市機能や生活サービス機能が集積する地域を拠点に位置づけます。また、産業や観光、歴史・文化施設などの資源が集積する地域をゾーンに位置づけます。

【都市拠点】	
✓ 生活サービス機能や公共公益施設などの高次の都市機能が集積するとともに、都市の交通が集中する市の中心的な拠点	<対象> ○ 安中市役所・安中駅周辺
【地域拠点】	
✓ 生活サービス機能や公共公益施設などの都市機能が集積し、交通結節機能を有する、都市拠点の機能を補完する地域の拠点	<対象> ○ 松井田仲町交差点・西松井田駅周辺
【生活拠点】	
✓ 主に生活サービス機能が集積した、地域の生活を支えるための拠点	<対象> ○ 原市交差点・磯部駅周辺 ○ 横川駅周辺 ○ 安中榛名駅周辺
【産業振興ゾーン】	
✓ 市の産業を支え、地域の身近な職場としての通勤や広域的な物流のための交通の強化を図るゾーン	<対象> ○ 一団の大規模産業用地 ○ 工業団地 など
【広域観光交流ゾーン】	
✓ 地域の資源や歴史・文化など適切に保全しつつ、広域観光を促進するための環境や機能を計画的に整えるゾーン	<対象> ○ 板鼻宿 ○ 秋間梅林 ○ 安中宿・安中城址周辺 ○ 磯部温泉 ○ 妙義山麓 ○ 松井田宿・松井田城址 ○ 横川・坂本宿・碓氷峠周辺 など

0
1
2
3
4
5
6第2章
—
全体構想

